

# 自己評価表（年少児）

ねらい 「一人ひとりの保育士等職員が、自らの保育を振り返り、取り組んでいることの意味や良さ、効果等を認識することが基盤となり、さらにより良い保育に向けて課題を明確にしていく。」

No.	内容		5月	12月
1	優しい笑顔で語りかけ、心のこもった世話をしている。		◎	
2	生活リズムが身につくように、くり返し話したり行動したりしている。		○	
3	指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。		○	
4	子どもの興味としつけのバランスを考えながら保育している。		○	
5	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所内外の研修を通じて、必要な知識や技術の修得、維持及び向上に努めている。		○	
6	保育所全体の保育の質の向上を図るため、保育実践や保育内容に関して他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。		○	
7	子ども一人ひとりの理解を深め、受け入れる努力をしている。	A 子どもの思いを大切にしながら対応している。	◎	
		B 食事・排泄のしつけを個にあわせて工夫している。	◎	
		C 心を落ち着かせるために、生活環境を整える(整理整頓)の努力をしている。	○	
		D 「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」など、制止や禁止のことばを用いないようにしている。	○	
		E 個の発達段階によって、可能な目標を定め、個にあわせて支援をしている。(個々にあった手助け)	○	
		F 子どものサインを見逃さず対応している。	○	
8	一人ひとりの声や活動をキャッチし、全体にも気を配っている。		○	
9	「かわり」を意識して保育している。	A 保育士の誘いに応えることができるよう配慮している。(あやす・言葉がけをする・たしなめる)	◎	
		B 他の子どもに話しかけたり、誘ったりできる雰囲気づくりをしている。	○	
		C 待ってもらっていることに気づいたり、待ってあげたりできる子どもを育むよう配慮している。	○	
		D 子どもが手本にしたり、真似したりできる行動を意識してとっている。	○	
10	A	子どもが甘えられる雰囲気を持っている。(雰囲気を作る努力)	○	
	B	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。(保健・衛生)	○	
11	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医の支持や協力の下に適切に対応している。		○	
12	保護者との連携が十分に取れている。	A 一人ひとりの保護者と、子どもの成長の喜びを共有している。	○	
		B 気軽に話しやすい雰囲気作りが出来ている。	◎	
		C 保育内容および質問に対して、わかりやすく説明できる。	○	
		D 子育てに関する相談、援助に対応できる。	○	
		E 支援を要する保護者に対して、適切に対応できる。	○	
		F 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。	◎	
13	地域との連携のあり方がわかる。	A 関係機関との連携のとり方を知っている。(民生委員、健康推進課、子育て支援室など)	○	
		B 子育て応援Dayなど、地域の親子を気持ちよく受け入れ、子育ての相談に応じる等、子育て支援ができる。	○	
		C 実習生、ボランティア等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	○	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者との関わりを通じ、しっかりとした人間関係をつくる。</li> <li>・基本的な生活習慣を身につけ、その自立に向かう環境作りをしっかりとする。</li> </ul>			
自己評価	子どもの発達の理解や連続性を意識した保育ができるよう努めていきたい。全職員での話し合いや共通理解を今以上に増やしていきたい。			

記入方法（◎とても良い、○良い、△配慮しましょう）

ひろはた